

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちにふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

むかし、むかしのこと。

「ああ、なして雨の降らんとじゃろか」
「田はほし上がつてしまふし、この分じゃ、いねもかれてしまふばい」
「うちの井戸もからからたい」

村の人たちは、青い顔をして、うらめしうに天を見上げていました。しかし、来る日も来る日も、ぎらぎらした太陽が照りつけるばかりです。ついには、川や池の底もすがたを見せ、やがて地われが生じはじめました。

松浦の民話⑤

しょう にん ばる

上人原

—むらさき色の雨—

人々は、言われるままにあなをほりました。上人様はその間に、うらの竹やぶから竹を切り、一本の竹つつを作られました。それからその竹つつを片手に持ち、
「今から、わたしは、このあなの中に入つて雨ごいをいたします。わたしが入りましたら、上をこの石と土でふさいでください。そして、どんなことがあつても、そこを開けてはなりません。いいですね」と言われると、ほり上げたばかりのあなの中へ入られました。
「そぞやんことのでくるもんか」
「上人様を、生きたまんまうむるこ

たあできまつせん」
みんなは口々にそう言いました。すると、上人様は、あなの中からしかりつけるように言われました。
「わたしの命は、生きものみんなの命です。さあ早く」
村人たちはおろおろと泣きながら、石のふたをし、竹つつの周りを土で固めました。
竹つつからは、一心不乱となえるお経の音が流れておりました。仕事を終えた村人たちは、その周りにひざまずくと、手を合わせ、いっしょにお経を唱えました。
やがて夜になりました。上人様

けきをつけた、品のよい一人の上人様が通りかかられました。そして、力なく歩いてくる村人たちへ、
「どうしたのじゃ」

と、声をかけられました。村人たちは、なみだながらに、雨が降らないためうえ死にするしかないこと、何とか雨一てきでもと、最後の雨ごいに来たことなどどうつたえるのでした。上人様は、村人たちの話を聞き終えますと、しみじみと、
「百姓には、水が命じゃからな」と、おっしゃいました。それから、上人様は目をとじられ、しばらく何か思案しておられる様子でしたが、目を開けられると、静かにこう申されました。
「すまぬが、人ひとり入れるほどのあなをほつてくだされ」



のお経は、暗い山から星空へ流れていきました。
お経の音は、チーンチーンと鳴る鐘の音とともに、日夜、たえる間もなく続きました。しかし、日がたつにつれて、声はだんだん細く小さくなつていきます。
「ふたば取ろ。見殺しにやでけん」
一人が石に手をかけると、あなの中から「ならぬ。今までの苦勞がむだになるばかりじゃ。取つてはならぬ」
上人様のきびしい声がするのでした。二十一日目の朝、村人たちが、いつものように、上人様のあなの周り

■あなたの力作を募集！

—民話の感想画募集—

この民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上、左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介いたします。

【応募資格】住所、年齢、性別など何も問いません。どなたでも応募できます。

【イラストの規格】はがきまたはA4サイズ以内の白紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの（色鉛筆の場合は濃く塗ってください）。

【必要事項】住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢、職業（学校名）

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。なお、いただいた個人情報（民話コーナー以外には使用しません）。

【応募締切】8月16日（月）必着
【応募・問合せ先】

〒805-9450

松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課

秘書広報係

☎0956-72-1111

Eメール＝

hoyo@city.matsura.lg.jp

※福島支所、鷹島支所、その他の各支所でも受け付けています。

中世の松浦 (21) 鷹島海底遺跡

平成13・14年度の緊急調査では、海底から出土した遺物に番号を付して取上げています。13年度は676点、14年度は1,328点。これにサイドポンプリフトを通して筏上で確認された遺物と海底面で採集した遺物および浚渫の際に出土した遺物を含めると総遺物点数は2,423点です。出土遺物は多岐にわたり陶磁器や武器類以外にも船材をはじめ磚や漆製品、文字資料などが出土しています。その中でも船材や多くの木製品は保存処理作業中です。

遺物の中で、陶磁器が製作された時期はこれまでの研究から13世紀中ごろから後半に位置づけられています。その中で、市内ではこれまで出土がなかった鈎窯系の陶器碗が出土しています。鈎窯は中国北宋時代に栄えた窯の名称で代表的な窯跡は河南省禹県八卦同で発見されており、その場所が明代に鈎州と呼ばれたことから鈎窯の名が生まれています。写真は日本で出土例が稀少な鈎窯の大碗(鉢)で澱青釉が内外面に施釉されています。口径は19センチ、器高は7・8センチで、内面には紫紅斑文が見られます。



▶ 鷹島歴史民俗資料館で展示中

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「きつねのお産」のイラストに、5通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】

近藤日陽ちゃん (星鹿保育園、5)
「おむこさんきつねが『産婆さん呼びに行くから待っててね』とおよめさんきつねに話してる声が今にも聞こえてきそうな作品です」(はま)



【優秀賞】 吉原葉月ちゃん (星鹿保育園、5)
「おむこさんきつねが人間に化けて産婆さん呼びに行った様子が上手に描かれていますね」(はま)



【優秀賞】 学童保育スマイルキッズ志佐児童クラブ
渡邊哉太くん (志佐・辻ノ尾、7)
「人間に化けたおむこさんきつねの表情で、心配している様子がよく分かりますね」(はま)



【優秀賞】
ペンネーム「石田葵五郎」志佐辻ノ尾、10
「3人の表情がよく描かれています」(はま)



【優秀賞】
ペンネーム「イブロー」(志佐辻ノ尾、5)
「赤ちゃんが生まれてみんなうれしそうですね」(はま)